
六本木アートナイト2018

六本木アートナイトをバリアフリーに巡る インクルーシブ・ツアー

報告書



六本木アートナイト実行委員会



1. 本事業の概要

2018年5月26、27日に開催された六本木アートナイトにおいて、車椅子の使用者でもバリアフリーに作品鑑賞や街歩きを楽しめるツアーを実施。ツアー制作にあたっては、事前に障害当事者とともにリサーチを行い、安全かつ楽しめるルートを検討した。またツアー実施後、アートナイトのアクセシビリティについて理解を深める報告会を行った。

企画運営：NPO法人スローレーベル

〈目的〉

- ・ 六本木アートナイトをインクルーシブ(社会包摂的)にするためのリサーチをする
- ・ より多様な参加者がバリアを感じず参加できるようにする
- ・ 当事者の声を聞き、現状を把握する
- ・ 現実の物理的バリアをどう乗り越えるかのトライアルをする
- ・ 多様な人たちとアートを巡ることで、新たな鑑賞の視点を得る
- ・ 実践した結果を報告会などで一般に伝えていく

〈準備及び本番のプログラム詳細〉

● ツアールート検討リサーチ

第1回(会場周辺下見、仮ルート作成)

日 時：2018年4月19日(木) 15:30～17:00

参加者：2名(SLOW LABELスタッフ)

第2回(仮ルート検証)

日 時：2018年5月11日(金) 13:00～15:00

参加者：6名(SLOW LABELスタッフ及び障害当事者アドバイザー)

第3回(最終ルート検証、雨天時検証)

日 時：2018年5月23日(水) 14:00～16:00

参加者：5名(SLOW LABEL、事務局スタッフ及び障害当事者アドバイザー)

● 六本木アートナイトをバリアフリーに巡る インクルーシブ・ツアー

ツアー① 六本木ヒルズ内 ※手話通訳付き

日 時：2018年5月26日(土) 14:00～15:30

参加者：7名 スタッフ：5名

ツアー② 六本木ヒルズ～東京ミッドタウン ※手話通訳付き ※イヤホンガイド付き

日 時：2018年5月27日(日) 14:00～15:30

参加者：9名 スタッフ：10名

●報告会

日 時：2018年6月19日(火)18:30～19:30

会 場：六本木区民協働スペース

参加者：31名 スタッフ：5名



リサーチの様子



ツアーの様子



報告会の様子

2. 事業の構成

●アートナイトのアクセシビリティを考えるために

単発のイベントのみで完結することなく、制作過程や報告会などで様々な人を巻き込み、様々な立場の人の意見を入れながら考える機会とする。そのため、① リサーチ → ② 実践(ツアー) → ③ 報告会の3部構成でプロセスと検証も丁寧に行うこととした。



●なぜ「車椅子」なのか

1. 会場の地理的な特徴と汎用性

アートナイトの会場(六本木ヒルズ、六本木周辺)の複雑な3D構造、階段や坂の多さは様々な人にとってバリアのひとつとなっている。「車椅子で巡れる」ことを基準として地理的・物理的な課題に取り組むことにより、障害者だけではなく、ベビーカーや小さな子供を連れている方、高齢者の方のバリアも同時に取り除くことができる。

2. ソフト面で改善できることの実践

「車椅子のバリアフリー」というと、スロープをつけるなどのハード面の改善が思い浮かぶが、コストや時間がかかることが多い。一方で、少しの工夫や、人材の力(ソフト面)で取り除けるバリアも多い。また、ハードのみでは多様な障害に対応できない(ex. 車椅子のためのスロープが視覚障害者にとっては危険なものとなる)こともあるが、人の力が加わることでより柔軟に対応できるようになる。実践を通してそのような気づきを主催者や街の人々が得るきっかけになることも目的の一つとした。

3. ツアープログラム・制作詳細

ツアー① 六本木ヒルズ内

	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
1 ▼ ▼ ▼	集合場所: 66プラザ オフィスエントランス前		【駅からの導線】 <ul style="list-style-type: none"> ・日比谷線六本木駅から66プラザ行きエレベーターで来る人(主に車椅子ユーザー)、エスカレーターで来る人、共にわかりやすい場所を検討し、決定した。 ・エレベーターの場所が奥まっているため、受付時間中は案内スタッフを配置した。
2 ▼ ▼ ▼	66プラザ内 ●鑑賞作品 マグダ・セイエグ 《六本木ヒルズ 15周年記念 インスタレーション》 ダーン・ローズガールデ 《マーブルズ》		<ul style="list-style-type: none"> ・ダーン・ローズガールデの作品は昼間では光が見えなかったが、触られる作品は反応がよかった。
3 ▼ ▼ ▼	ウェストウォーク ●鑑賞作品 片岡 純也 《すり抜ける紙飛行機》 ニコラ・ビュフ 《提灯ロケット》など	 	【移動のペース、タイムキープ】 <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子、子供など、歩くペース等が様々なため、参加者の顔ぶれが確定した段階でルートとタイムキープ方法を再検討し、鑑賞する作品の数で調整することとした。 【鑑賞時のスペース確保】 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に作品が設置されていたため、車椅子を含む団体が鑑賞する際のスペース確保、誘導や立ち止まる際の配置のオペレーションを検討した。
4 ▼ ▼ ▼	エレベーター[K]で B2(けやき坂通りレベル)へ		【使用エレベーターの検討】 <ul style="list-style-type: none"> ・使用するエレベーターについては、位置や行き先だけではなく、利用頻度も検討する必要があった。車椅子のサイズによっては1台乗っただけでいっぱいになってしまう場合もあり、また、すでに人が乗っ

	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
			<p>ている状態だと乗れず、待ち時間が長くなってしまふことがあるため、利用度が高いエレベーター(美術館入り口のGエレベーターなど)は避けてルート組みをした。</p>
5	アリーナ ●鑑賞作品 金氏 徹平《タワー》 宮本 宗《影ワニ》		<ul style="list-style-type: none"> ・当日、「タワー」を近くから鑑賞できない(アリーナ内に入れな)ことが判明したため、鑑賞時間を短くし、《影ワニ》を鑑賞した。
6	毛利庭園 ●鑑賞作品 生田目 礼一《未来庭園》 三枝 文子《踊るランタン》 など		<p>【鑑賞場所の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生垣越しに鑑賞する作品では、車椅子ユーザーの目線でも見やすいよう、生垣の高さが低い場所を選んで鑑賞した。
7	移動～ エレベーター[F]で1Fへ		<p>【道の傾斜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛利庭園を抜け、エレベーターFに向かう道が登りの傾斜になっている。車椅子での通行が可能かどうかは、介助者の有無、車椅子の種類、障害の程度、筋力/体力により違うが、目安としては以下のとおり。 -手動車椅子：不可(普段から運動をしているなど、筋力がある人は可能な場合も) -電動車椅子：可能 <p>手動車椅子ユーザーには通行が困難な面があったものの、他のエレベーターを使用する時間のロスも鑑み、スタッフを多めに配置し必要に応じて介助(車椅子を押し)することとした。</p>
8	アートナイトカフェ 苦瓜推進協議会 《inVisible Playcity 都市は見えない遊び場展》 アンケート記入、終了		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴーヤジュースを飲んだり、ボードに字を書いて参加することができたため、反応がよかった。ただし、スペースが小さく、車椅子参加者の割合が多くなる場合はオペレーション検討が必要。

● ツアールート図とアクセシビリティのポイント



- 1 金氏 徹平「タワー」
- 12 生田目 礼「未来庭園」
- 17 片岡 純也「すり抜ける紙飛行機」
- 18 三枝 文子「踊るランタン」
- 38 ニコラ・ビュフ「提灯ロケット」
- +3 ダーン・ローズガールデ「マーブルズ」

ツアー② 六本木ヒルズ内

	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
1 ▼ ▼ ▼	<p>集合場所: 66プラザ オフィスエントランス前</p> <p>66プラザ内</p> <p>●鑑賞作品 マグダ・セイエグ 《六本木ヒルズ 15周年記念インスタレーション》 ダーン・ローズガールデ 《マーブルズ》</p>	  	<p>【イヤホンガイドの導入】 前日のツアーにて、手話通訳者からガイドの声が聞き取りにくく(風の音や人の声など環境音のため)、通訳が難しいとの指摘があったため、急遽イヤホンガイドを使用した。手話通訳のためだけではなく、各参加者が見やすい位置から作品を鑑賞しつつガイドの解説を聞けるため、車椅子ユーザーにも好評だった。</p> <p>【雨天時の対応】 ルートのほとんどが野外のため、リサーチ時に雨天時の対応を当事者アドバイザーと検討した。(第2回リサーチ時は雨だったため、シミュレーションを行った)雨具(レインコート)を着用し、介助スタッフが傘をさしても車椅子の車輪部分が濡れてしまうと移動が困難になってしまうため、今回は雨天の場合はツアー①に変更することとした。</p>
2 ▼ ▼ ▼	<p>クロスポイントのエレベーターから地下道を経由し、六本木通りを渡り、街中へ</p>	 	<p>【安全な街中の移動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子で安全に街中を移動するため、人通りの比較的小さいルートを検討した。歩行者と車椅子ユーザーは目線が合いにくく、特にイベント時の人混みでは進みにくだけでなく接触などの危険もあるため、ひと通りが少ない地下道を経由するルートとした。 ・ミッドタウンへ向かう道の候補は「人通りが多い」「道が狭い」「歩道がない」など、安全でベストなものがなかったため、ガイドから注意喚起を行うとともにスタッフを多めに配置し誘導を行った。

	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
<p>3</p> <p>▼</p> <p>▼</p> <p>▼</p>	<p>六本木西公園</p> <p>●鑑賞作品 富永ボンド《ボンドアート》 丸倫徳《Untitled》 サムワズガーデン×アトリエま あん《時のウロボロス》</p>	  	<p>【公園入口のアクセシビリティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車止めチェーンにより、車椅子ユーザーが入れる幅の入り口がなかった。車椅子マークが付いている入口部分も、実際には通り抜け不可能。小柄な女性のコンパクトな車椅子でも難しい。 <p>※ツアーの際には特別にチェーンを外してもらい、入場した。</p> <p>【作品鑑賞、体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西公園にはアーティストと話したり、体験できる作品が多かった。多様な参加者がいる鑑賞ツアーにはコミュニケーションや体験の要素が有効であることがわかった。 <p>【休憩】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園にはスペースがあり、車椅子用トイレもあったため、任意で休憩できるよう時間を多めにとったが、医療ケアが必要な参加者からはもう少し時間が長い方がよかったとの声もあった。
<p>4</p> <p>▼</p> <p>▼</p> <p>▼</p>	<p>東京ミッドタウン 芝生広場</p> <p>●鑑賞作品 宇治野宗輝 《ドラゴンヘッド・ハウス》 鈴木康広 《空気の人》</p> <p>アンケート記入、終了</p>	 	<p>【ミッドタウンから駅への導線】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッドタウンの地下からバリアフリーでアクセスできる駅は大江戸線のみ(日比谷線への通路は段差・階段があり、車椅子リフトも故障しておりアクセス不可)のため、参加者への事前連絡にて伝えた。また、大江戸線改札へもエレベーターの乗り換えが必要でルートが複雑なため、希望する参加者にはスタッフが改札まで案内を行った。

● ツアールート図とアクセシビリティのポイント



- 3 宇治野 宗輝「ドラゴンヘッド・ハウス」
- 14 志茂 浩和「挟まる人」
- 19 富永ボンド「ボンドアート」
- 20 丸 倫徳「Untitled」
- 21 サムワズガーデン×アトリエまあん「時のウロボロス」
- 54 鈴木 康広「空気の人」

補足案内：ミッドタウン～国立新美術館

ツアー終了後、国立新美術館での作品鑑賞を希望する参加者のために、車椅子でアクセスできるルート
のマップを配布した。国立新美術館は六本木ヒルズ、ミッドタウンから向かうと谷間に位置しており、周
辺には急勾配の坂道が多い。そのため、ミッドタウンを経由するルートを設定した。本ルートも行きは下
り坂のため車椅子で通行可能だが、国立新美術館→ミッドタウンの逆ルートは手動の車椅子だと難しい
場合がある（勾配は比較的ゆるやかだが距離が長い）。
障害当事者アドバイザーは国立新美術館に訪問する際は必ず乃木坂駅を利用し、ミッドタウンや六本木
ヒルズまで足を延ばすことはないとのこと。今後、3か所を周遊するツアー・案内等を作成する際には検
討が必要である。

障害当事者アドバイザーは国立新美術館に訪問する際は必ず乃木坂駅を利用し、ミッドタウンや六本木
ヒルズまで足を延ばすことはないとのこと。今後、3か所を周遊するツアー・案内等を作成する際には検
討が必要である。



4. 実施体制

●障害者にとって、どんなことがバリアなのか？

情報伝達のバリア

「どこで、どんなプログラムがあるのかわからない」

→障害のある人は情報を得る手段が少なくなりがち。また、学校や施設など、信頼できる特定の人からの情報しか得ないという場合も多い。

「自分が参加できる内容なのかわからない」

→一般向けの情報だと、障害者が参加できるのか、サポートがあるのかわからない。

物理的なバリア

「会場まで行けない」

→会場までの道のりがバリアフリー化されていない／されているかわからないために行けない。

「介助者が必要。」

→介助者や家族のスケジュールをおさえられない場合、来られない。

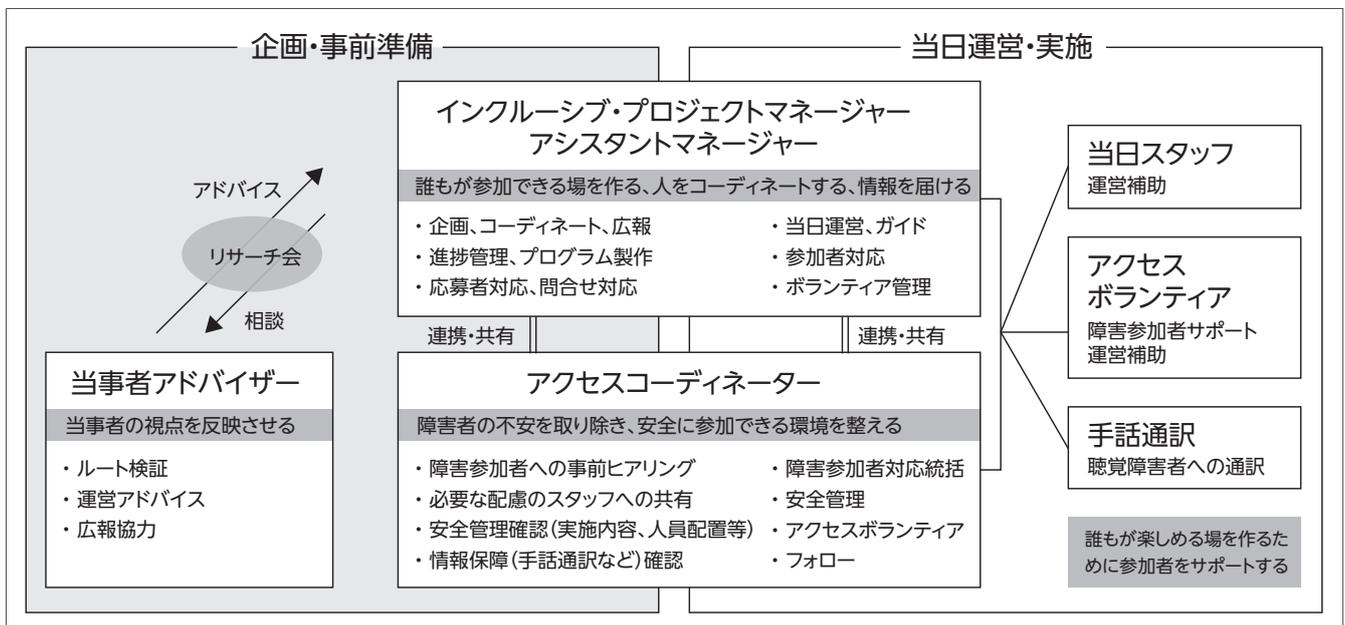
心理的なバリア

「本当に自分にできるのか不安」

→健常者には何でもないことでも、自分の普段の環境から出るだけでも障害者にとっては心理的な負担が大きい。「活動中や直前に発作が起きたらどうしたらよいのか」「自分の特性を理解し、受け入れてもらえるのだろうか」といった不安から、参加をあきらめてしまうケースが多い。

●実施体制

上記のようなバリアや不安を取り除くために専門性を持ったスタッフが連携し、プログラム実施を行っている。以下の実施体制により、障害者が参加しやすく、誰もが安全に楽しめる場を作ることができる。



5. 提案 — より多くの障害のある方々にアートナイトを楽しんでもらうために

● 広報の工夫

スケジュールリング: 告知は早めにリリース(遅くとも2~1.5ヵ月前)

- ・介護者の手配、体調を整えるなどが必要な人もいる。
- ・参加にあたって詳細のやりとりが必要な人もいる。
- ・聴覚障害の参加者の申し込み時にのみ手話通訳を手配する場合、実施日の2週間-10日前までには申し込みをしてもらう必要がある。

申し込み・連絡のツールは複数設定しておく

- ・ウェブフォームやメールだけでなく、FAXや電話、はがきなど、人によって使いやすいツールは様々。福祉施設などはFAXや電話がメインでメールはほとんど使わないことが多い。

対象によってチラシや広報ツールをわける

- ・一般用、福祉関係用など

広報先の工夫

- ・福祉関係の場合、直接説明に行くなどが最も効果的。
- ・説明には映像や写真など、イベントの様子がわかるものをつける(言葉だけでは理解が難しい人もいるため、施設職員、家族が当事者に説明しやすいように素材を用意する)
- ・障害種別によっても情報を得る方法、ネットワークが違うため、特に届けたいターゲットにあわせて検討することが必要。

● 参加者との事前のコミュニケーション

申し込み時の情報として何が必要か？

- ・「みんなが安全に楽しく参加できる環境をつくるために必要な情報」を考え方の基準に、イベントごとに検討する。(イベントの種類や形式によって聞くべき情報が違う)
 - 受付に関わるスタッフ間で、なぜその情報が必要なのかを明確に認識しておく。
- ・障害種別は「障害者手帳」に記載のとおり申告してもらう(本人の認識等と違う場合があるため)

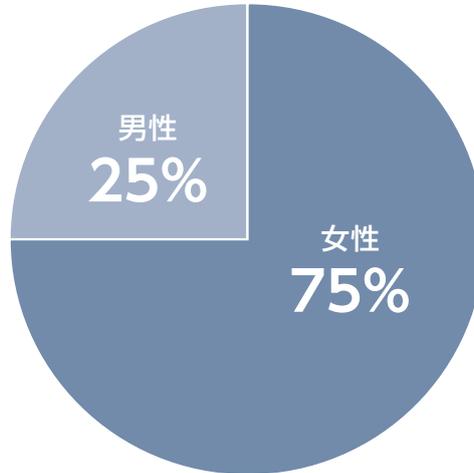
より詳しいコミュニケーションが必要なとき

- ・できるサポート、できないサポートを明確にして伝えておく。
- ・安全に関わる情報はしっかり聞き、対策方法を当事者やその家族と確認しておく(発作など)。
 - 場合によっては緊急連絡先、近隣の病院を事前に調べる／休憩のためのスペースやマットなどを用意する／それらを当日運営スタッフやボランティアと共有する等が必要。

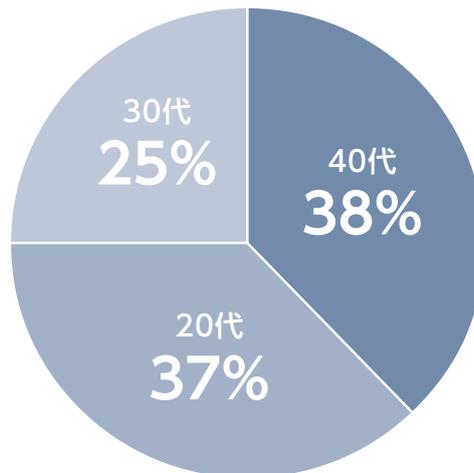
6. アンケート結果

● ツアー 回答数：8

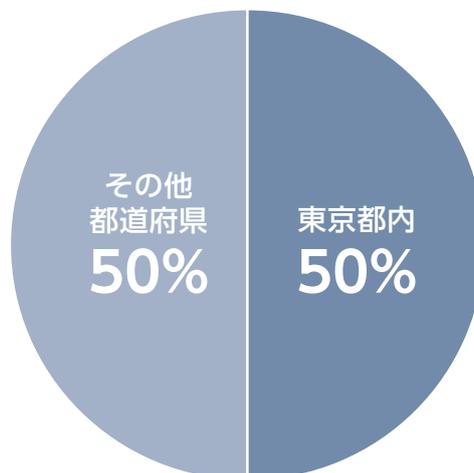
① 性別



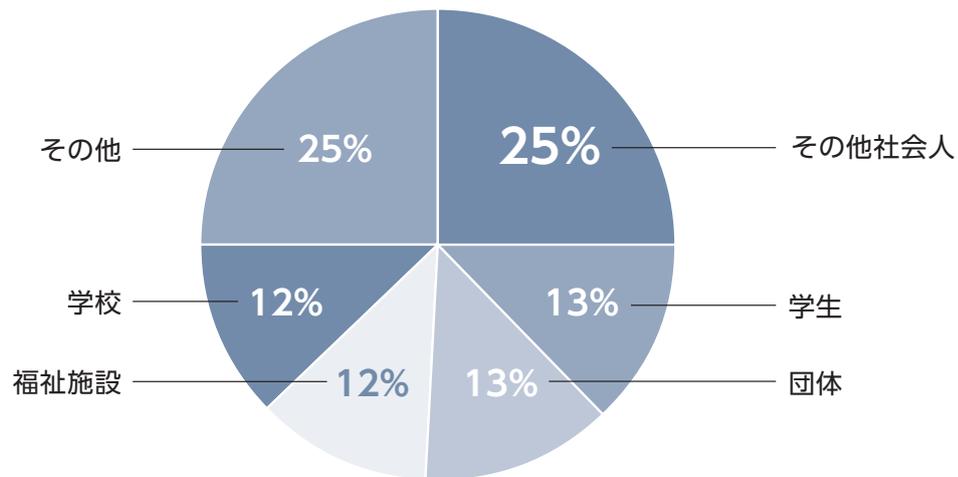
② 年齢



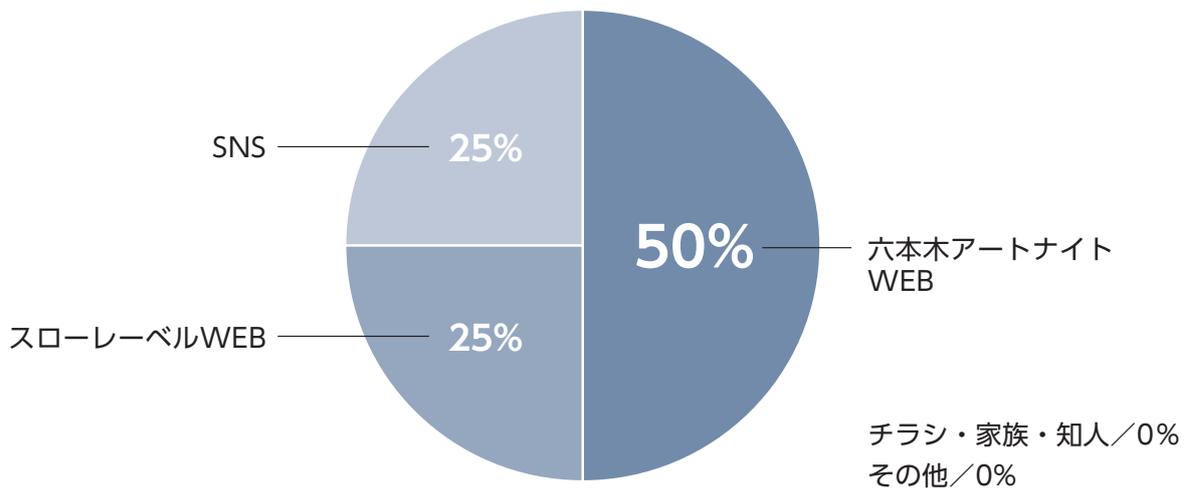
③ 住まい



④ 所属

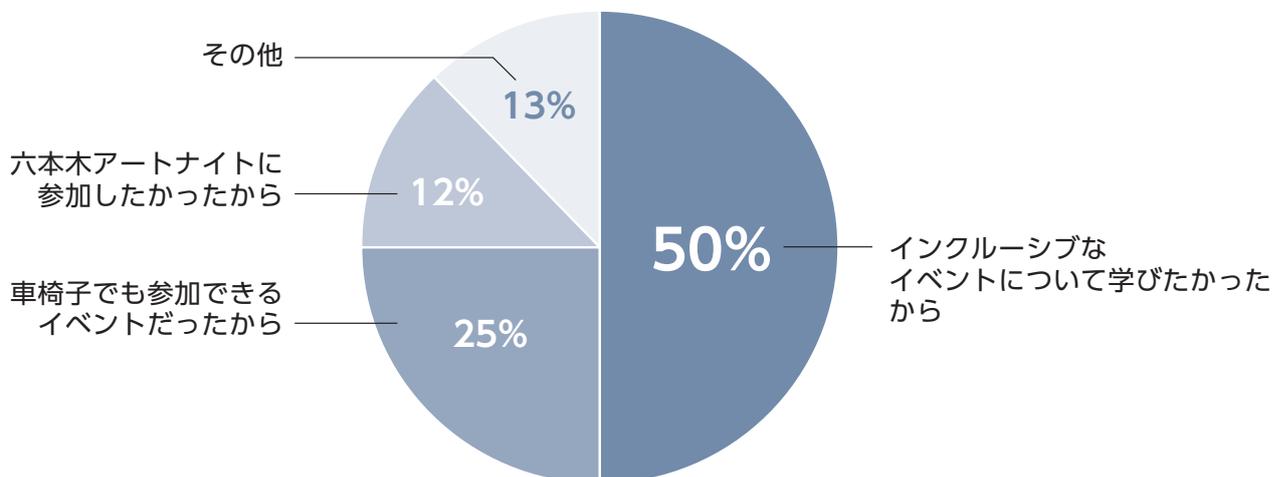


⑤ 本プログラムをどこで知ったか

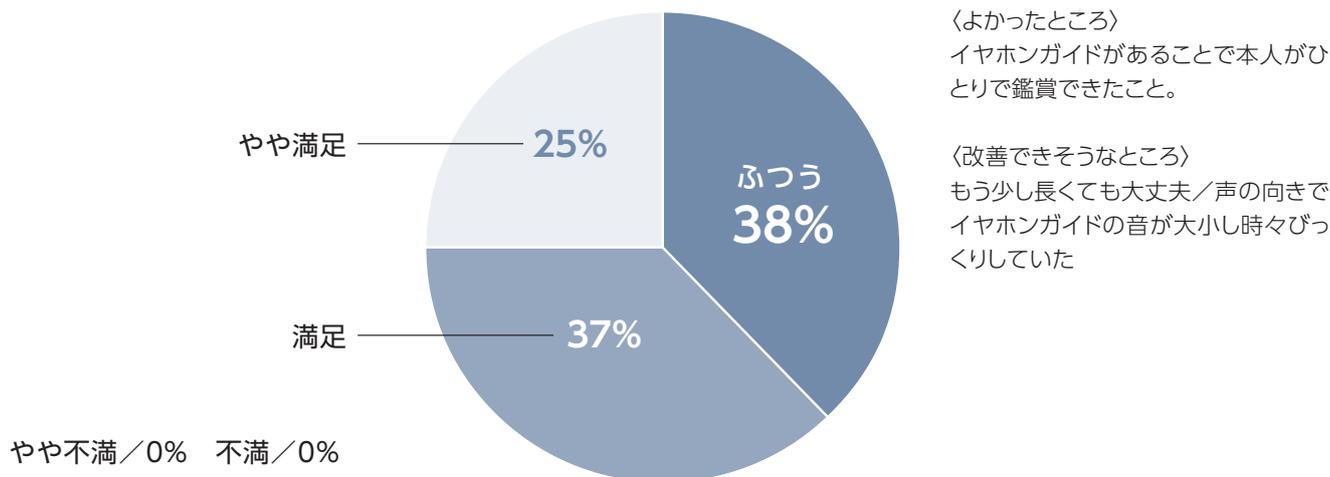


⑥ プログラムについて

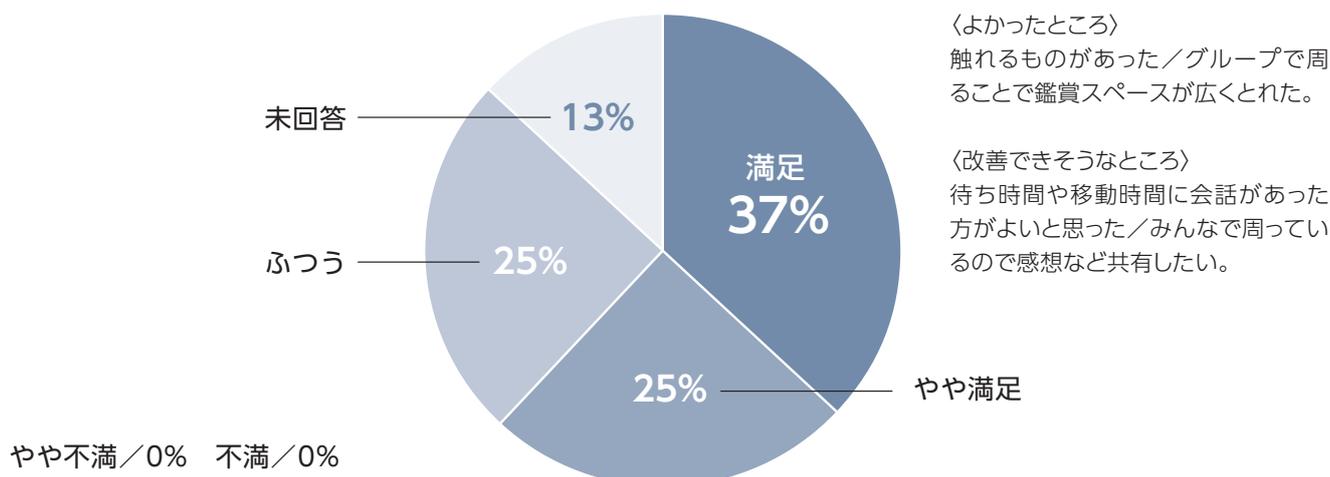
⑥-a 本イベントに参加しようと思った動機



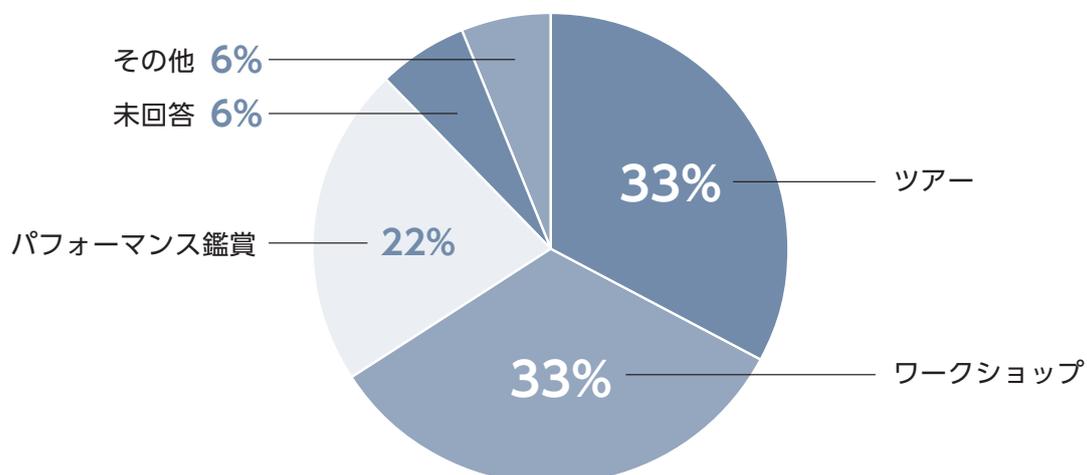
⑥-b ツアーの長さ、ルートについて



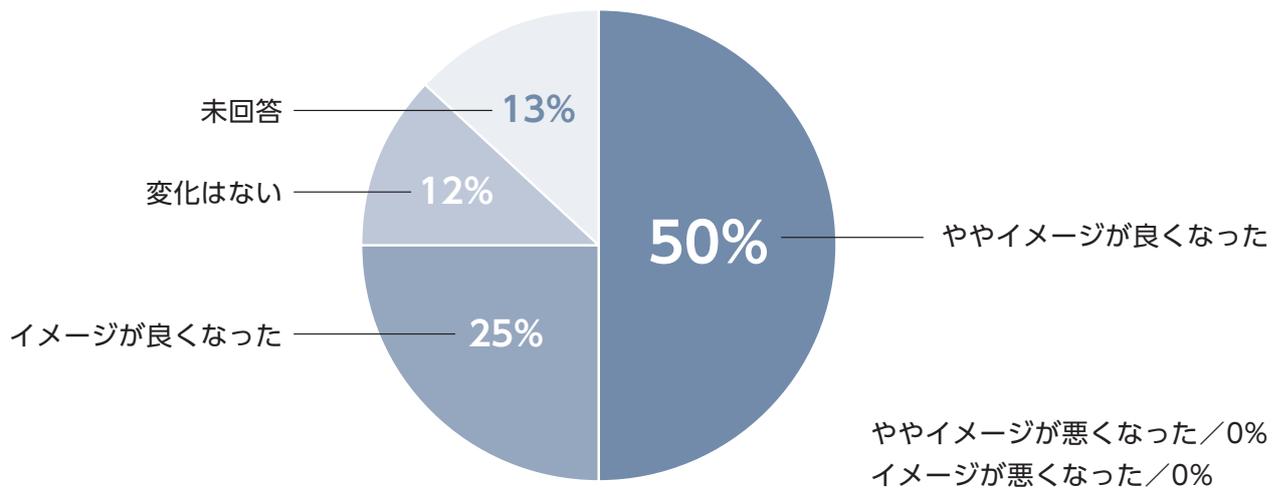
⑥-c 作品鑑賞について（鑑賞時間や作品選定など）



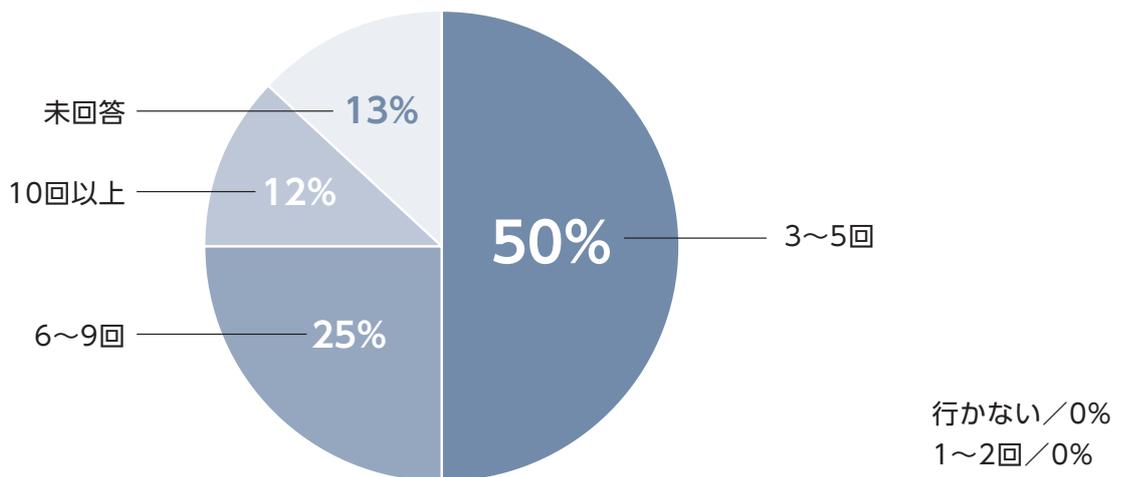
⑦ どのようなプログラムに参加してみたいか（複数回答可）



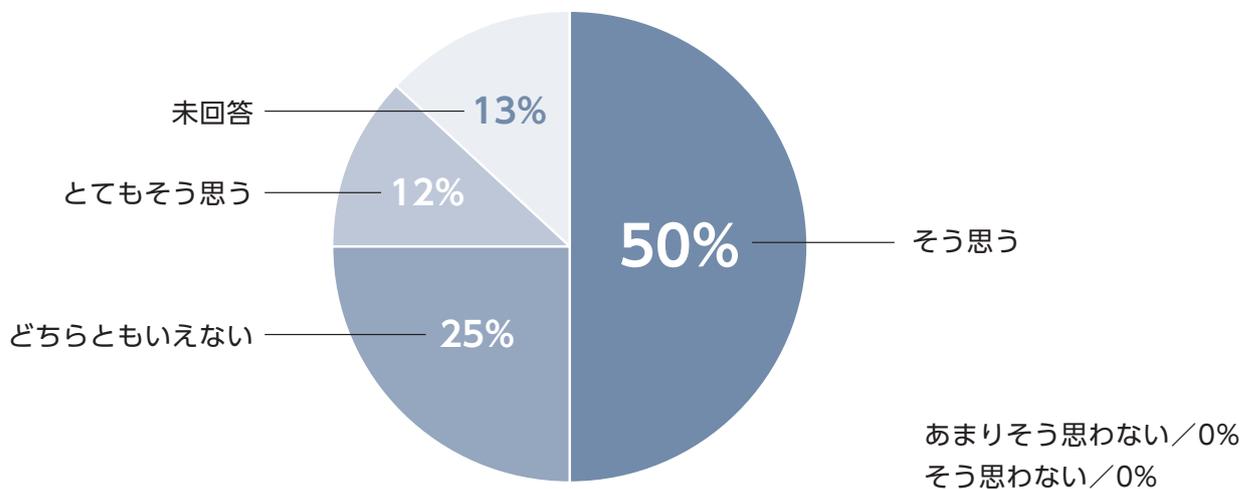
⑧ 「六本木アートナイト」参加後、六本木の「街」としてのイメージに変化があったか。



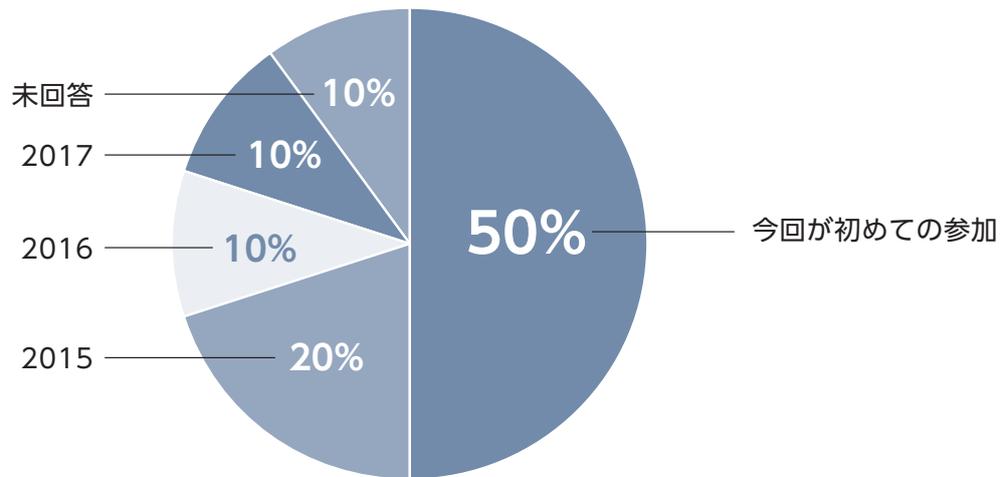
⑨ 1年間で美術を鑑賞する機会はどのくらいか



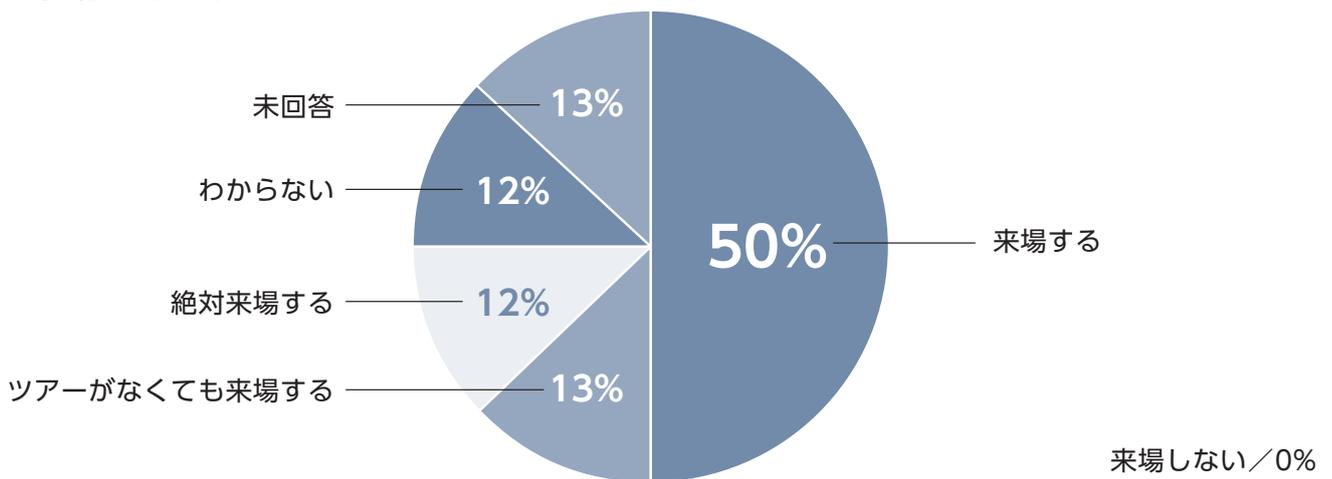
⑩ 美術に対する関心は高まりましたか？



⑪ 過去に「六本木アートナイト」に参加された経験



⑫ 次回開催した場合「六本木アートナイト」にバリアフリーツアーがあれば来場するか。



⑬ どのような工夫があると六本木アートナイトに参加しやすくなると思いますか

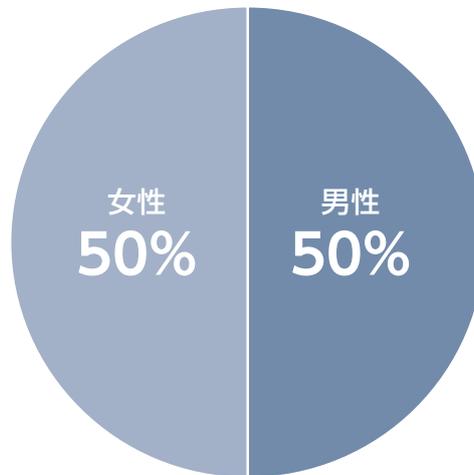
- ・体力的にツアー全参加が難しい場合もあると思うので、頂いたMAPのようなものをチラシと一緒に置いてもらえると車イスでも鑑賞できると気付くきっかけになるかも？
- ・参加方法や集合場所に関する連絡がもう少し早めにあるといいかなと感じました。
- ・途中5分～15分程の休憩・フリーな時間(医療ケアがあると一度動き始めると止まりづらいため)

⑭ ご意見・ご感想

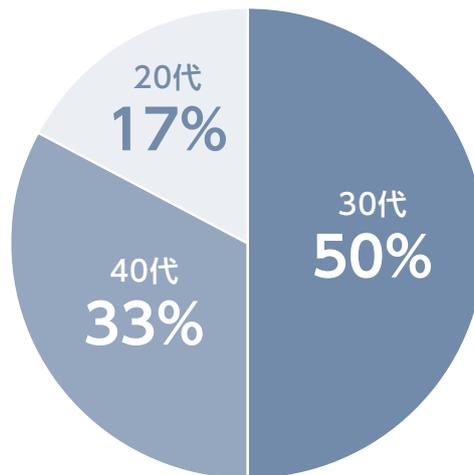
- ・いろいろ話しかけてくださってとても嬉しかったです。
- ・初めて参加していつもと違った視点で作品を見る事ができよかったです。
- ・もっと多くの方に知ってほしいイベントでした。お友達にも知らせておきます。

● 報告会 回答数：12

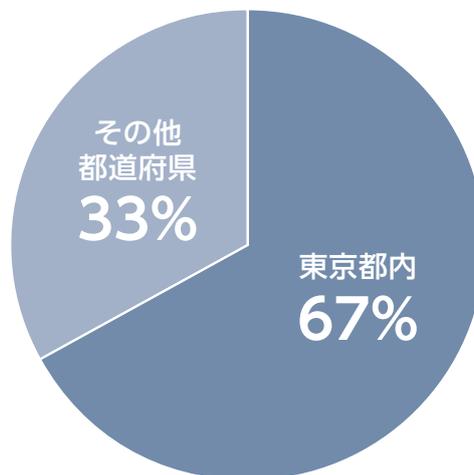
① 性別



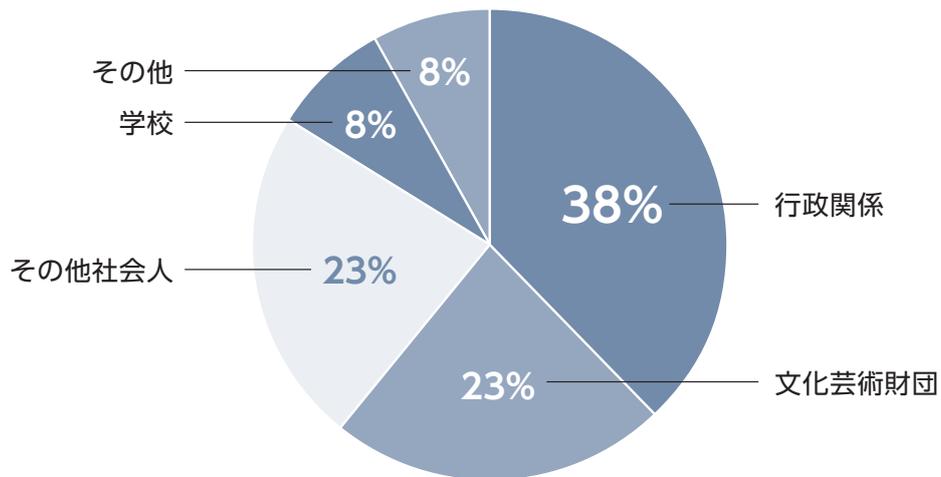
② 年齢



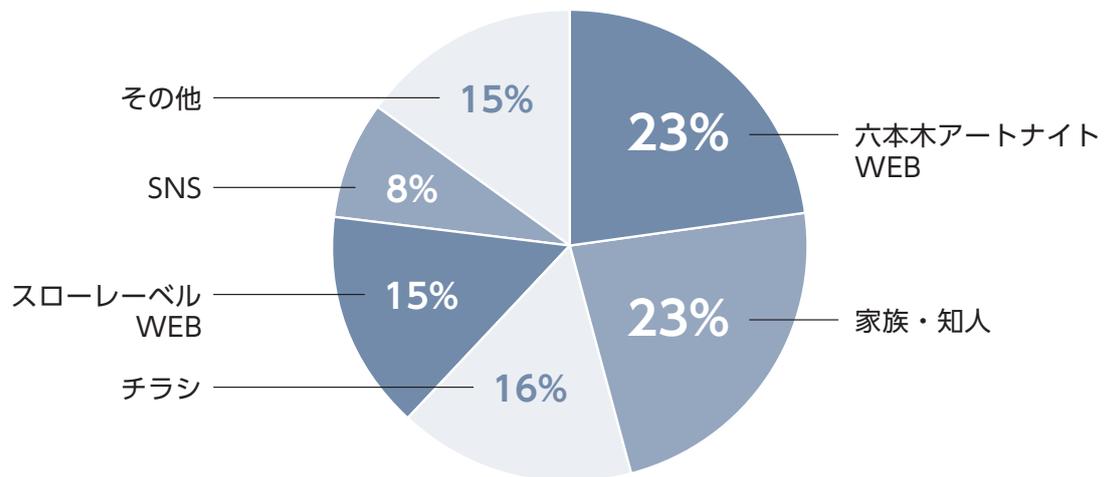
③ 住まい



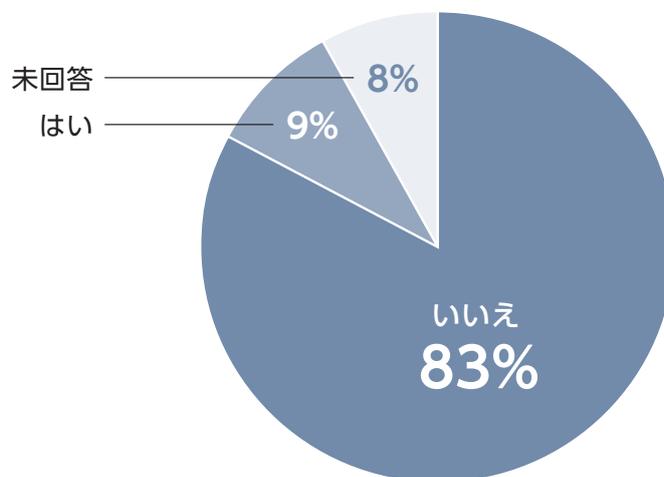
④ 所属



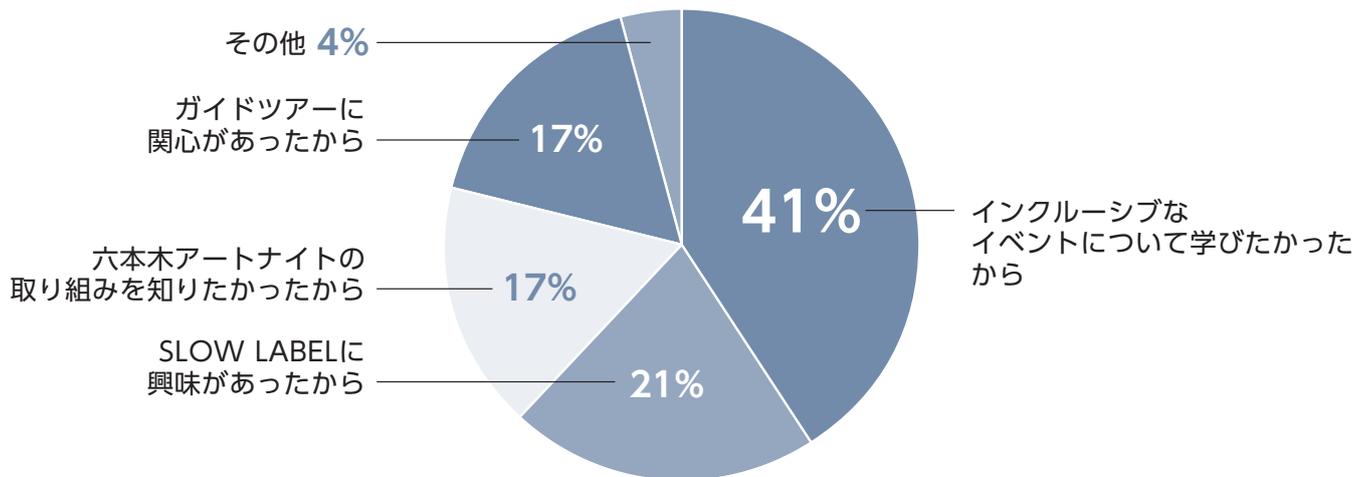
⑤ 本プログラムをどこ知ったか



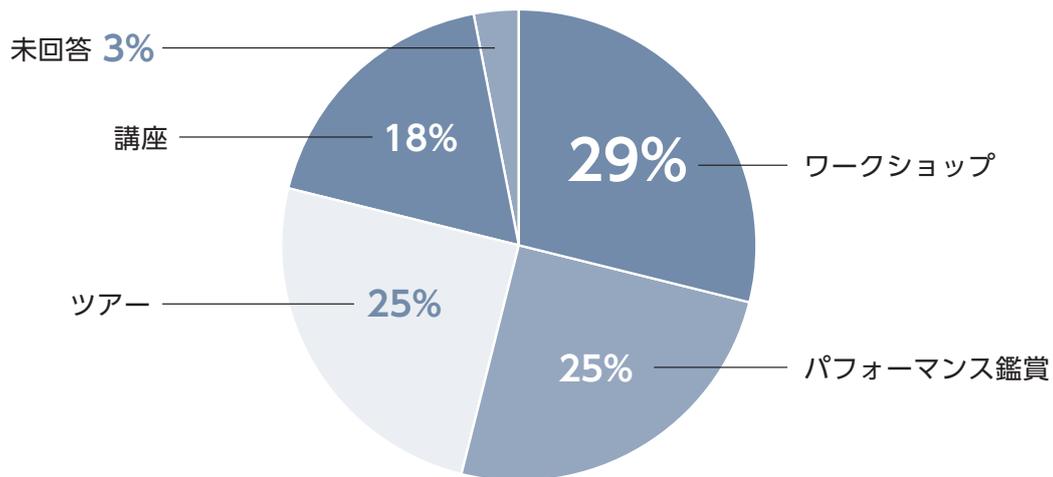
⑥ インクルーシブ・ツアーに参加したか



⑦ 本イベントに参加しようと思った動機



⑧ 今後、六本木アートナイトのインクルーシブなプログラムとしてどのようなものを期待するか



⑨ ご意見・ご感想

- ・貴重な共有の機会をありがとうございました。
- ・様々な方の意見や視点を知れてよかったです。
- ・障害者がアートイベントをツアーで巡る今回の取り組みは大変素晴らしいと思います。
- ・取り組みを通じて、ハード面以外にも一工夫することで改善可能なバリアがあるようであれば、地域や行政にフィードバックしていただき、街自体の更なる発展につながると更に良いように思います。
- ・引き続き実施してください。
- ・今後もこのような活動をぜひ続けていただきたいと思います。アートを通じて誰もが多様性を認め合える社会になるといいなと思いました。

六本木アートナイト 2018

■開催日時(メインイベント) 2018年5月26日(土)10:00~5月27日(日)18:00

■コアタイム:5月26日(土)18:00~27日(日)6:00

※コアタイムはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。

■開催場所:六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21DESIGNSIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

■主催:東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21DESIGNSIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成:平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

六本木アートナイトをバリアフリーに巡る インクルーシブ・ツアー 報告書

原案:NPO法人スローレーベル

写真:shinya kigure+Locul p

発行:六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL:<https://www.roppongiartnight.com/2018/>